



2024年10月28日

唐古・鍵遺跡と耳成山(三山シリーズ・パート①)

案内 福嶋昭 写真 福嶋昭・山本 記録 木村

実施日 2024年10月24日(木) 近鉄橿原線 田原本駅 10時半集合

参加者 26名



行程 田原本駅 10:30 スタート→唐古・鍵考古学ミュージアム(田原本青垣生涯学習センター内)(11:15~12:00)
→史跡公園で昼食(12:35~13:00)→遺跡見学~13:30→道の駅→石見駅解散 14:30

真夏の天気から解き放たれて、少し汗ばむことはあっても過ごしやすい一日だった。

曇り空の下、田原本駅を出発。駅を出て歩くと古い町の様子が残る通りがあり、斜め上方を見ると茶町 少しく歩くと祇園町 角をまがると材木町 と、通りの名前の看板がある。人通りは少なく、出会った人に聞くと古くからの商店街とのこと。材木町の通りには、蔵のある昔作りの家があった。文具屋さんの入り口横には、見るからに年代物の『古梅園』と書かれた看板があり、奈良の墨を取り扱っていたとのこと。途中、道標で方向を確かめ、寺川を渡る橋の袂では大神宮の燈籠に足を止め、ミュージアムに向かう。

ミュージアムでは



ヒスイ 勾玉

1, 唐古・鍵遺跡は環濠集落。

しかも何重にも環濠に囲まれていた。初瀬川、寺川に囲まれた緩やかな傾斜地に村が出来ていたのが、俯瞰の模型からもわかった。

2, 出土したものの中で目を引いたのは針。その針の穴の小さいことに驚いた。細い細い糸を撚り、針に通し、また、その糸を機織り機にかけ布を織っていたのだと思うと、弥生時代の人ってすごいなー。……でも、もっと見たいという気持ちを抑え、次の史跡公園に行く。

3, 途中の道には公園への道順を示す表示板が道に埋め込まれていた⇒



針



機織り



史跡公園に到着

4, 昼食→唐古池端に立つ楼閣をバックに集合写真。

この楼閣は、出土した土器に描かれていた絵をもとに復元されたそうだ。渦巻き状の屋根飾りや、上層の欄干には木の鳥がとまり、良く知られている建物。楼閣の西側には柱模型があり、情報館内は大型建物の柱跡。参加者の熱心な見学で、時間が押してきていた。目の前に道の駅、寄りたいたの声もあり、急遽道の駅「レストイ唐古・鍵」での買い物となった。あとはぶらぶらと駅方面へ。

5, 石見駅への途中では、実がなったざくろの木・渡来人による鏡造りの神社を樹木の隙間からみたり、橋の上からは遠くに三輪山を眺め、田園風景の道を歩き、石見駅に到着。解散。そして残念ですが、耳成山はパート②に繰越となりました。



情報館内の模型展示



三輪山を望む ←



こんな花も咲いてたよ。



唐古・鍵遺跡 櫓閣前